

めぐみイエス・キリスト教会

2018年11月18日(日)第三主日礼拝
週報「通算第432号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年11月18日(第三主日礼拝)

第一礼拝 午前10時～11時

第二礼拝 午後6時～7時

司会(奏楽) 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌209「慈しみ深き」 p. 316

【交読文】 No.21 詩篇第62篇(抜粋) p. 895

【賛美Ⅱ】 新聖歌99「まぶねの中に」 p. 139

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.4「天には救いの喜び満ち」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書16章23節～24節(新約p. 196)

【祈 禱】

【説 教】 《私の名によって求めなさい》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所【ヨハネの福音書16章23節～24節】

16:23 「その日には、あなたがたはもはや、私に何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、私の名によってそれをあなたがたにお与えになります。

16:24 あなたがたは今まで、何も私の名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」

●ポイント1 主イエス様が教えられた祈りとは？

※ルカの福音書11章1節～4節 「主の祈り」 (新約p.123下段)

●ポイント2 「私の名によって」とは？

※ヨハネの福音書14章13節～14節「何かを求めるなら」(新約p.192上段)

「また私は、あなたがたが私の名によって求めることは何でも、それをしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私はそれをしましょう。」

●ポイント3 「求めなさい。そうすれば受けるのです。」とは？

※マタイの福音書7章7節～11節「良いものを」 (新約p.10下段)

「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。」

あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。また、子が魚を下さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。

してみると、あなたがたは悪い者ではあっても、自分の子供には良い物を与えることを知っているのです。とすればなおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして求める者たちに良いものを下さらないことがありましよう。」

※ローマ人への手紙8章32節「使徒パウロの勧めから」(新約p.277上段)

8:32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子と一緒にすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましよう。

※ヘブル人への手紙10章35節～39節「必要なものは」(新約p.401下段)

10:35 ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはなりません。それは大きな報いをもたらすものなのです。

10:36 あなたがたが神のみ心を行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。

10:37 「もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。おそくなることはない。」

10:38 私の義人は信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、私の心は彼を喜ばない。」

10:39 私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じて命を保つ者です。

◎先週のメッセージの概要【もう一度】

《イエス様は、ここで「産みの苦しみ」のたとえを話されました。出産の苦しみは、女性だけが経験しうるものであり、男性には分からないことです。しかし愛する我が子を産み終えた時には、大きな喜びがやって来るのです。

このたとえは、弟子たちに「産みの苦しみ」のような大きな苦しみがやって来ても、その後、必ず、大きな喜びに包まれることを預言されているのです。

さて、次にイエス様は「もう一度あなたがたに会う」、とも言われました。

ルカは、ガリラヤ湖において、最初の大漁の奇跡を書き記しています。それによりますと、夜通し働いたペテロたちは、何一つ捕れませんでした。イエス様のお言葉通りに深みにこぎ出し、網をおろしてみると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになったと喜びに満ち溢れた経験が書かれています。

またヨハネは、同じようなことがガリラヤ湖において、イエス様の復活後に起こったことを書き記しています。

「子どもたちよ。食べる物がありませんね。舟の右側に網をおろしなさい。」

そこで、彼らは網をおろすと、おびただしい魚のために、網を引き上げることができませんでした。ペテロは、主イエス様だと分かると、一目散に湖に飛び込んだのです。まさしくもう一度イエス様は、彼らと会って下さったのです。

主イエス様にお会いすることは、ただ単に顔と顔とではなく、人格と人格との出会いであることが分かります。なぜなら主は、生きておられるからです。

さて、「あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。」と言われました。

そして「喜び」については、このような約束を弟子たちにされています。

「私がこれらのことをあなたがたに話したのは、私の喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」

ここで「私の喜び」とは、すなわち主の喜びであり、それは弟子たちを、そして私たちを愛して止まない喜びです。主の喜びは上からやって来ます。上から降り注がれるのです。それゆえ、「いつも主にあって喜ぶ」べきなのです。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は、11月25日(日)です。通常通り、第一礼拝は午前10時から、そして第二礼拝は午後6時から行ないます。次回の祈祷会は、11月21日(水)午後6時15分からです。また、11月28日(水)の祈祷会はお休みします。

